

上ノ権現沢（南八ヶ岳・地獄谷）

令和3年1月27・28日

メンバー：坂野（L）、草田（記）

令和2年は、人類が新型コロナウイルスに振り回された一年だった。それは登山者も例外ではなく、多くの山岳愛好家たちも、理由は人それぞれだが、他県や他地域の山へ行くことを躊躇した。私自身も気持ちを切り替えて、冬から夏まではクライミングを中心に、その後は OMM に参加するためトレランを中心に山や岩場へ行っていた。だから今回の上ノ権現沢は、久しぶりのアルパインスタイルであった。



久しぶりにパンパンに入
ったザック

初日は美し森から出合小屋への移動。朝の交通渋滞に巻き込まれながら下道を北上し、須玉のオギノで行動食を購入。それから寂れた清里の駅前を通り抜け、美し森の駐車場に車を止める。水曜日だったこともあり、止まっていた車は豊田ナンバーの一台だけだった。

だだっ広い駐車場で準備をし、パンパンになった 80L のザックを背負って林道を歩き始める。一年ぶりのフル装備。足取りも重くなる。ようやく出合小屋に着いた頃には、太陽は目指す稜線の奥へと沈んでしまった。私たちはやることもないので、早々に夕食を摂って、19時には就寝した。



↑ 出合小屋
今回一番良かった展望→





沢は終始雪に埋もれている

辺り一面が雪で覆われていたからか、ひと際美しく見える。高さが20~30m、角度は70~80度。少し水が滴っているが、厚みは十分。綺麗に、そして厳かにそそり立っている。

リーダーの提案もあって、この滝は私がリードすることになった。落ちた際のコトを考えたら、段々状の滝よりも怪我するリスクは少ないと判断したからだ。突然の提案に驚いたが、私も今回、いつリードをやってもいいように心構えだけはしてきた。なにより前回、夫婦の滝をノーテンションで登れたのだ。それに



少し水が滴っている

比べたらこの滝は見る

からに易しい。勿論油断は良くないが、いつまでもセカンドなものも考えものだ。程よい緊張感の中、私は右手を振りかざす。

アックステンションを掛けながら、亀の歩みの如く少しずつ登っていく。スクリュウの数は普段のリーダーと比較して明らかに多いが、グラウンドフォールよりマジだと割り切って気にしない。緊張感からか、腕に余計な力が入っているのだろう。

翌日は4時に起き、朝食の支度を始める。すると5時頃、男性二人がやって来た。聞くと日帰りで権現の東稜を狙っているらしい。帰りはツルネ東稜と言っていたので、下降ルートは一緒だ。彼らのトレースを期待して、6時前に小屋を出る。ほどなく歩いてヘッドンをしまい、上ノ権現沢へ入る。想像よりも雪で埋まっており、滝を登っている感じは一切しない。「アルパインクライミングの練習だな」と気持ちを切り替え、リーダーの後を追う。そうして二時間ほど歩くと、左手に夢幻沢大滝が現れた。



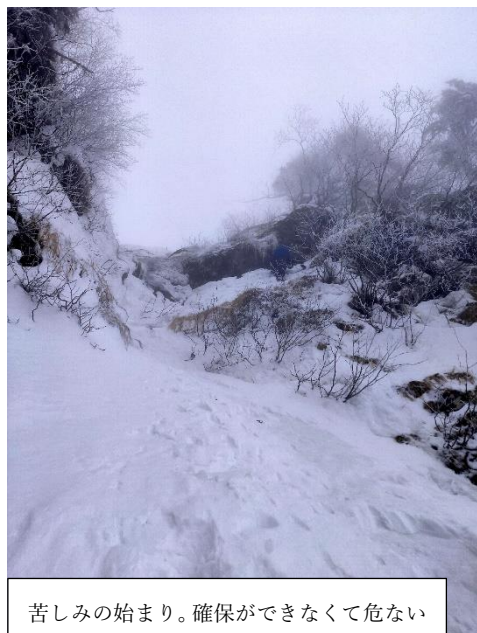
夢幻沢大滝

すぐ疲れるし、刺しも甘い。それでも、一步一步着実に丁寧に登っていく。そうしてようやく落ち口に辿り着くと、なによりも安堵感が先にきた。よかった、生きている。そして達成感は、リーダーのビレイをし始めてからじわりじわりと湧いてきた。でもその感動に浸る間もなく、リーダーはあっという間に登って来た。

懸垂下降をし、滝を背に本流を詰める。霧が立ち込め、目指す稜線も見えないほどに視界が悪くなる。そんな中歩いていると、さっき登った滝は夢か幻ではないかとさえ思えてくる。興奮のあとのつまらない沢歩き。45度の傾斜は、ただ徒に体力を消耗させる。そうして稜線まであと直線距離で300mの所までたどり着くと、沢の表情が一変した。



リーダーのセカンド

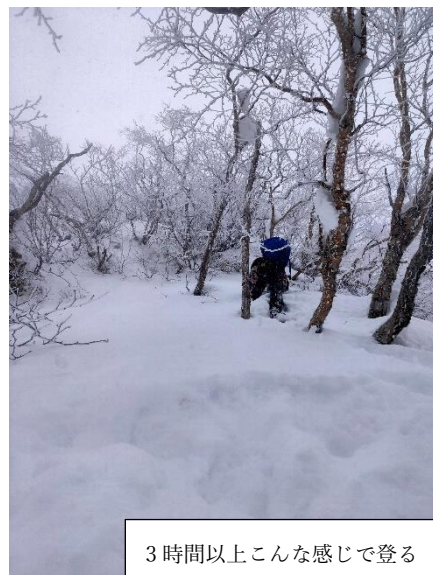


苦しみの始まり。確保ができなくて危ない

傾斜がきつくなり、腰から胸あたりのラッセルになる。アックスで雪を払い落としてモンキークライミング。木やハイマツを掴んで、重心移動で登っていく。ノーロープなのに、一時間経っても二時間経っても、霧のせいで目の前にはあるはずの稜線が見えない。落ちたら谷底の、緊張感のある登攀が続く。そしてようやく旭岳直下の稜線に辿り着いた頃には、もう14時を過ぎていた。僅か300mを進むのに、なんと3時間

間以上もかかってしまったのだった。

稜線に出ると、西斜面から強い風が吹きあがってくる。夢幻沢大滝以降まともに休憩していないので少し



3時間以上こんな感じで登る

休みたかったが、この強風の最中では正直そんな余裕はない。歩いての方がマシなレベルだ。トレースのない稜線を北へと進んでいく。沢を詰めている時は、稜線に出ればラクになると思っていたが、その考えが甘かったことを改めて思い知らされる。



稜線もこんな感じ。今山行は、8割以上リーダーがラッセルをした。ありがたい。

小一時間ほど歩くと、ツルネ東稜の案内板が出てきた。少し下ってから休憩し、アイゼンや登攀道具をしまう。久しぶりの一服。残業は確定しているので、とりあえず頬張れるだけ頬張って気合を入れなおす。赤テープを慎重に辿りながらラッセルをしていく。途中尾根を間違え30分ほどロスしたのは精神的にも肉体的にも厳しかったが、それでも根性で進むしかない。ヘッドランプを点け、無事小屋に辿り着いた時にはもう19時を過ぎていた。さっきまでの悪天候が嘘のように静まり返っている地獄谷。足早に流れる雲間から、小望月が煌々と河原を照らす。朝の二人組の残置された荷物はもうない。私たちは最後の気合を振り絞り、せせらぎが響く方へ再び歩いて行った。

コースタイム

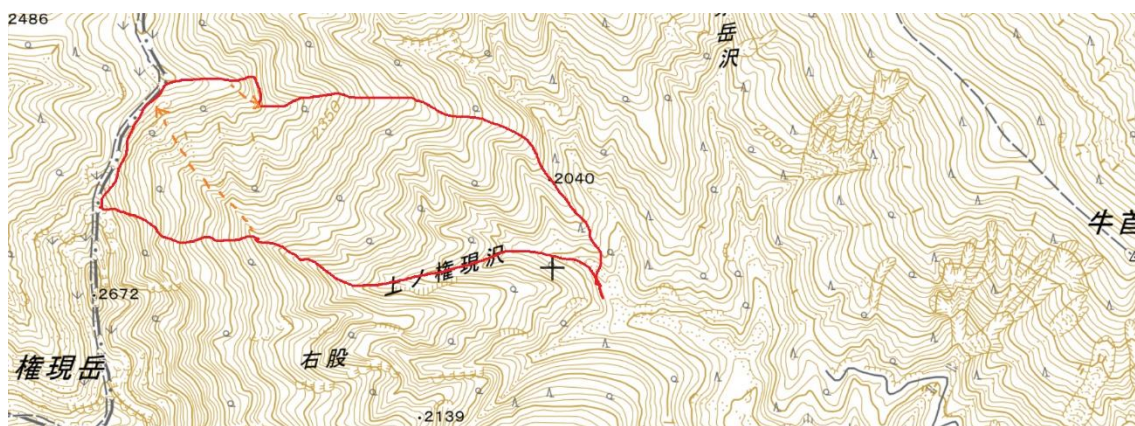
一日目

13:30 美し森駐車場 → 16:20 出合小屋

二日目

6:00 出合小屋 → 8:20 夢幻沢大滝 10:00 → 14:20 稜線 → 15:20 ツルネ東稜分岐 16:00

→ 19:20 出合小屋 19:50 → 22:15 美し森駐車場



出合小屋からのルート。オレンジの点線が本来のルート。ジオグラフィカのGPSの精度は非常によく、視界が悪い中、道を間違えても迷ったことはなかった。今回の一番の収穫だろう。